

保護者対象の「高志高校説明会」や、中学校に出向いての「高志高校説明」の際に寄せられた質問を中心に、Q & Aを掲載します。

合わせて、当日の感想から、いくつかを抜粋して紹介します。

今後、新たに寄せられた質問についても、適宜、Q & A等を追加しますので、質問やご意見等ございましたら、お気軽に学校までお問い合わせください。

1 求める生徒像

Q 1 どのような生徒が高志高校にふさわしいですか。

A 1 高志高校は、「克己、創造、敬愛」の校訓のもと、「国際社会および地域社会のリーダーとして貢献できる知徳体の調和のとれた人材の育成」を教育目標に掲げています。

こうした校訓や教育目標に共感し、自分もこうした人になりたいと思っている生徒に入学してほしいと考えています。

もう少し具体的に言うと、例えば、次のような資質・能力を身に付けている（身に付けようとしている）生徒がふさわしいと言えるでしょう。

「克己」 自律できる力

- ・自分で自分を客観的にみつめ、コントロールできる生徒
- ・学習や部活動、その他の活動等を「やり抜く」ことができる生徒
- ・自分で決めたこと、選んだことを粘り強く続けることができる生徒
- ・困難な状況にあっても、プラスの要素を見つけて頑張れる生徒

「創造」 あたらしいものを創り、問題を解決できる力

- ・好奇心の強い生徒、読書が好きな生徒
- ・人の話を聞いたときに手を挙げて質問ができる生徒
- ・思うだけでなく、行動に結びつけることができる生徒

「敬愛」 他者を理解し尊重できる力

- ・国籍や文化を問わず、相手が誰であろうと尊重できる生徒
- ・先輩、先生、学校外の大人と物怖じすることなく、話ができる生徒
- ・自分の考えをもっている生徒、それを口頭や文書で堂々と発信できる生徒

そのためには、目的意識が大切です。将来社会に出たときにどのようにして社会に貢献したいのか、そのためのプロセスとして、高校や大学でどのようなことを学びたいのか、どのような高校生活、大学生活を過ごしたいかなどについて、中学のときから考える習慣をもつと良いと思います。

2 教育課程、学習指導

Q 2 進学型単位制教育課程とは、どのような教育課程ですか。

A 2 将来の大学受験に備えて、自分の進路実現のために必要な教科・科目を選択できるように、多くの選択科目を配置した教育課程を「進学型単位制教育課程」と呼んでいます。学年が上がるごとに選択科目が増え、特に3年次には、進路志望に応じて、20単位分以上の「選択科目群」の中から選択できます。

このときに、効率よく学習できるよう、理系、文系とも3つ類型（類型a、b、c）に分かれ、教科・科目を選択して、学習することになります。

※類型については、Q10を参照してください。

Q 3 単位制と書いてあるのですが、もし単位を落としてしまったら、進級できないのでしょうか？

A 3 高志高校に限ったことではありませんが、高校には進級・卒業のための要件があります。1単位でも落としたら、進級・卒業できないというようなことはありません。

高志高校では、ホームルーム活動を除いた3年間の全授業の合計単位は102単位です。このうち、12単位を超えて単位を落とすと原級留置になり、進級・卒業できない決まりになっています。

Q 4 補習はありますか。課題の量はどうですか。

A 4 数学など一部の教科で、定期考查での成績不振者に対して、補講や再テストを行っています。全生徒を対象に、年8回程度、土曜日の午前中に課外を実施しています。また、希望者を対象に、ハイレベル模試への対応講座等の土曜講座を、年に数回、実施しています。

課題については、日々の予習に加えて、基礎的な知識の蓄積や自宅学習用の教材として、「単語帳」や「問題集」等を配付しています。週明けには、漢字や古文単語、英単語のテストなどが計画的に行われています。できるだけ、生徒一人ひとりが自主的に学習できる時間を確保するために、共通の課題を減らす検討を行っています。

Q 5 1、2年生は高入生と内進生が同じ授業を受けることはないのでしょうか。

A 5 1年次には体育や芸術で同じ授業を受ける場合があります。2年次でも、体育の授業で同じになる可能性があります。2~3クラスをまとめて講座を組み、同時に学習するためです。

Q 6 内進生に比べて高入生は授業進度が速いのではと思いますが、補習等のフォローがあるのでしょうか。

A 6 授業進度が速いことを理由とした補習等は行っていません。高志高校では、中高一貫教育を始める前から、理系の理科（「基礎」のつかない「物理」、「化学」等）を除いて、ほとんどの教科・科目について、2年次までに教科書の学習内容をほぼ終えてしまう教育課程を実施してきました。

これは多くの教科・科目を一定のレベル以上学習して受験する必要がある国公立大学入試、難関私立大学入試に対応するためです。

Q 7 高志中学校の生徒は、数学で先取りをしていて、かなり先を進んでいると聞いたことがあります。高校入試で入学した生徒でも追いつくことができるでしょうか。

A 7 高志中学校の生徒は、数学と理科で高校の内容を一部先取りして学習しています。そのため、内進生と高入生は、1、2年生の間は異なる教育課程で学んでいます。

もともと高志高校では、中高一貫教育を始める前から、理系の理科（「基礎」のつかない「物理」、「化学」等）を除いて、ほとんどの教科・科目について、2年次までに教科書の学習内容をほぼ終えてしまうので、3年次には、高入生が内進生と同じ授業を受けられるようになります。

理系の数学や理科などの一部の科目では、最後まで異なる授業を受けるという場合もあります。

Q 8 2年次の海外研修までに、英語のコミュニケーション力は身につくのでしょうか。

A 8 1年次から、実践的な英語コミュニケーション力を育成するための授業等を行います。4技能を総合的に高める英語学習に取り組んでください。

実際に研修旅行までに十分な力が身につくかどうかはケースによります。研修旅行中に失敗などを経験することが大きな刺激となり、その後の学習意欲につながったという生徒がこれまでにたくさんいました。

研修旅行は参加者のマインドを変える大きな行事ですので、積極的に参加してほしいと思います。

Q 9 塾に行っている人はどのくらいいますか。

A 9 福井県教育委員会が実施する「学習と進路に関する意識調査」の中に、塾に通っているかどうかを尋ねる質問があります。昨年度の高志高校の回答状況は、

高1：約40%、高2：約45%、高3：約55%
でした。

学習に集中する時間と空間を確保するために塾に通っている生徒が、一定数いるようです。

3 クラス編成

Q10 クラス編成、文理分けは、どのように行っているのですか。

A10 1年次と2年次は、高志中学校から進学した生徒（内進生）と高校入試を経て入学した生徒（高入生）は別クラスとしています。

2年次になると、文系と理系に分かれます。さらに、難関大等への進学を前提にして教科の発展的な内容も学ぶ「発展クラス」と、幅広い進学志望に対応し丁寧に学習をすすめる「標準クラス」に分かれます。

3年次になると自分の興味・関心や志望大学に応じて、文系・理系とともに、類型a、類型b、類型cの3つの類型、つまり、合計6つの類型に分かれます。

類型aは、難関国公立大学を志望する類型、類型bは、その他の国公立大学を志望する類型、類型cは、芸術や家庭科等の科目をより多く履修できる類型です。

私立大学を第1希望にする場合は、大学の難易度や受験科目・配点を検討して、所属する類型を選んでもらいます。

Q11 高志中学校から進学した生徒（内進生）と高校入試を経て入学した生徒（高入生）は別クラスになるのでしょうか。

A11 Q10にあるとおり、1、2年次は別クラスですが、3年次は混合クラスになる場合があります。

ここで言う「混合」とは、内進生と高入生が同じクラスで学校生活を共にするという意味です。

3年生になると選択科目が増え、大学受験の科目等、必要に応じて授業を選択して学習することになるので、同じクラスの生徒であっても別々の科目の授業を受けることになります。進度や難易度に応じた授業が同時に開講されるので、生徒によっては、生活をしているクラスから、講義室や学習室等に移動して、他のクラスの生徒と同じ授業を受ける場合もあります。

4 中高一貫教育

Q12 中高一貫になってどのように変わりましたか。

A12 一言で言えば、以前よりさらに多様な生徒の集団になってきています。積極的に意見を出し合ったり、異なる意見を受け入れたりして、一層活気ある学校になってきている雰囲気があります。

生徒が学校生活に関する意見を集約して、学校生活を変えていくという動きが見られるようになりました。中高生徒会合同の連絡協議会があって、例えば給食後に中学生が体育館で運動する時間がまったくないので、中学校発の案を中高で協議して、清掃のな

い日を設定し、その時間帯に中学生が優先的に体育館を使うなど、今までにない取組が色々と生まれていて、活気ある学校と言えます。

Q13 内進生と高入生との融和はスムーズに行われるのですか。

A13 1、2年次の間は、授業が別々に行われることが多いので、最初のうちは生徒の中に内進生と高入生という意識があることは否めません。しかし、学年全体でのLH、部活動、学校祭等を通して、同じ高志高校生として協力し合って活動することで、両者とも生き生きと活動するようになります。

Q14 運動部のグラウンドや体育館の使用は、中学生と共用になるかと思いますが、部活動時間等の制約はあるのですか。

A14 限られた時間の中で、グラウンドや体育館を分け合って使っているため、多少の時間的制約があるのは事実ですが、大きな支障にはなっていません。参考までに、部活動の完全下校時間は、以下のとおりです。

完全下校時間 中学生 18時、 高校生 18時55分

一方で、高校生が中学生を教える場面もあることで、高校生が自主性やリーダー性を養うこともできるという、他の高校では見られない面がうかがえます。

Q15 内進生と高入生の学力差は、どのくらいあるのでしょうか。

A15 他の都道府県の中高一貫校に見られる一般的な傾向として、「内進生は3年、6年の間に学力に開きが現れるようになる。一方、高入生は、高校入試を経てある程度の幅におさまった学力層の生徒が入ってくるので、内進生ほどの学力差はない。」と言われています。その傾向は、本校にも当てはまります。

なお、高志中学校では、中学卒業までに全員が準2級以上に合格することを目標に学習しています。中には、2級以上を取得する生徒もいます。英語に関しては、内進生と高入生の間で、多少差があるのが現実です。

Q16 生徒会活動の中高連携とは具体的にどのようなことをしているのですか。

A16 中学、高校それぞれの生徒会執行部や、各種委員会の正副委員長、正副生徒代議員長からなる生徒中央協議会を開催し、互いの活動を共有したり、合同での活動を考えたり、学校全体に関わる問題について共通認識を持ち、意見交換をしたりしています。

中高生徒会での議論がもとになって、学校生活を取り巻くルールを変える動きが生まれています。

5 生徒指導

Q17 自転車通学の条件(許可される距離など)を教えてください。

A17 原則として制約はありません。ただし、福井駅～本校間の自転車通学は許可していません。

Q18 最近の災害状況を踏まえ、学校での災害時の対応は、どうなっていますか。

A18 台風や豪雨、大雪等の自然災害が発生した際、発生する恐れのある際には、緊急メールシステムで、生徒諸君・保護者に速報します。高志高校は一次避難所としての指定を受けていないため、食糧・水の備蓄はありませんが、自動販売機は災害時対応のものを設置しています。

災害発生時の「危機対応マニュアル」を整備し、万が一の際に教員や生徒がとるべき行動を定めています。毎年、避難訓練を実施するとともに、AEDの使用方法等についても、研修を行っています。

Q19 スライドを見ると、体育祭の色分けは3色だったように思うのですが、どのようにして色分けしているのですか。

A19 以前は高校が各学年8クラスあったため4色に分けていました。ただし、中学校は3クラスなので、各クラスの生徒を4色に分けていました。

現在は高校のクラス数が各学年7クラスに減り、3学年合計で21クラスと3の倍数になったので、色分けを3色にしました。色ごとの各学年のクラス数に差はできるのですが、色別の生徒数、男女比等に配慮しながら抽選をして、3色に分けるようにしています。

Q20 部活動をしていないことで、よくないことはありますか。

A20 生徒の中には、校内の部活動には所属せず、クラブチームでの活動や校外でのボランティア活動などをしている人もいて、部活動をしていないことが悪いというものではありません。

部活動に所属し、苦楽をともにするという経験があると、卒業後も思い出を共有し、強い絆を持つことができる可能性は、大きくなるのではないかと思います。

Q21 文芸部の活動を教えてください。高志中学校との交流はありますか。

A21 各自分が創作した散文、詩、短歌、俳句などを週に1回持ち寄り、批評し合った後、

リライトし、部誌に載せるというのが主な活動です。部誌は年2回発行しています。

「文芸道場」「ジュニア文学カフェ」などの催しもあり、他校文芸部との交流も盛んです。高志中学校に文芸部はありませんが、部誌への寄稿が可能ですし、学校祭時に高校文芸部生徒との交流があります。全国高等学校総合文化祭（文芸部の全国大会）にも参加が可能です。

Q22 陸上をしています。陸上部の部活動についても教えていただきたいです。

A22 平日は4日間（木曜は休養日）、陸上競技の基礎的な技術練習中心に90分程度の練習をしています。土曜・日曜は活動1日（大会は別）、種目別専門練習及び記録測定を学校または競技場で行っています。雨天時、冬季は室内での筋力トレーニングが中心になります。

Q23 部活動、特に野球部について教えていただきたいです。

A23 マネージャー（3名）を入れて35名で活動しています。4月～10月は、水曜日を部活動休養日とし、土曜・日曜は大会、練習試合等が入るので、基本的に活動日になります。11月～3月は、シーズンオフになり、土・日のどちらかを休養日します。

平日練習時間は16時45分から18時35分。休日については、大会・練習試合の場合は1日、通常練習の場合は、半日の活動です。

日々の練習は、時間と場所の制約の多い中、最大限の成果が得られるように、グループごとのローテーションメニューを組み、打撃練習、守備練習、トレーニングを行っています。

Q24 ソフトテニス部が廃部になると聞いたことがあります、本当ですか。

A24 高志高校らしい活気ある部活動を継続していくためには、部活動の統廃合、復活等についての議論を避けるわけにはいきません。

現在は、統廃合や復活を議論する上での原則を固めた段階です。具体的にどの部活動を廃部にするという議論には、まだ、至っていません。仮にどこかの部活動を廃部にする場合には、前年度の夏・秋のうちに、中学生や保護者の皆様にお伝えして、理解していただいた上で入学してもらうようにいたします。

6 進学指導

Q25 大学入試制度改革に対する貴校の取り組みについて、現高校2年生は大学入試制度改革に伴う「大学入学共通テスト」初年度受験者になりますが、貴校においては生徒に対して、どのような取組をしていますか。

A25 英語の民間の資格検定試験は延期になりましたが、大学受験のためだけでなくグローバル化の進展への対応として、英語4技能のバランスのとれた育成に努めています。具体的には、毎日の朝学習において、NHKの英語ラジオ講座に、学年全体で取り組んでいます。また、1、2年生はGTECを全員受験しており、英検多くの生徒が受験しています。国語と数学の記述式への対応については、日頃から難関国立大学の受験を想定して、思考力や表現力を重視した授業を行っており、定期考査においても「大学入試共通テスト」の記述式を意識した問題づくりに努めています。

Q26 大学受験に向けた個別指導がどのような内容か、具体例を伺えませんでしょうか。

A26 これまでの例でいいますと、例えば3年次に、生徒の志望校別（東大・京大・難関大学・ブロック大学・地元国公立大別）の特別講座を、長期休業中や大学入試センター試験の後などに行っていました。

令和2年度以降は、進学型単位制教育課程が適用されることから、授業での学習自体が志望校別の学習のような性格のものに変わりますので、さらに大学進学に向けた学習が充実することになります。

小論文や実技、面接が必要な生徒には、その一人一人に担当教員を割り当てて指導しています。これは高志高校が県下で最も早く取り入れた指導方法です。

また、生徒が、個別試験の英語や数学などの問題等を自主的に解いて教科担任に提出し、放課後等にその添削指導を受けている姿は、本校においては、当たり前の光景となっています。

Q27 大学推薦制度について教えてください。

A27 推薦入試は、大学が定めた出願基準をクリアし、かつ校長の推薦を受けたものが出願できる制度です。現在の高校3年生が受験する入試から、推薦入試は「学校推薦型選抜」と名称が変わりました。

「学校推薦型選抜」は大きく2つに分けることができます。一つは「指定校制」、もう一つは「公募制」です。「指定校制」は大学が高校を指定して出願枠を設けるものです。合格したら進学しなければならない専願制で、私立大学を中心に行われています。高志高校には、毎年多くの大学から推薦依頼が届きます。一方、「公募制」は出願基準をクリアすれば、全国の高校から出願できるものです。

国公立大の場合、出願の成績基準が高く、一つの高校から出願できる人数も制限されているのが普通です。選抜方法は、指定校制・公募制とともに、書類審査、小論文、面接とするところが多いです。国公立大学を中心に、「大学入学共通テスト」を課す選抜も多くみられます。

Q28 土曜課外と土曜講座は、どう違うのですか。

A28 土曜課外は平日の授業の補習や模擬試験に向けての対策、演習などを行います。年に6～7回程度、生徒全員参加で行います。

土曜講座は、高い志をもって学習に取り組んでもらうために、大学入試問題やハイレベルな模試の問題などの、発展的な内容を扱う講座です。年に2回、希望生徒対象に行います。

Q29 高志高校の卒業生はほとんどが大学に進学するという話ですが、大学卒業後の活躍の様子はわかりますか。

A29 高志高校の卒業生は、大学や大学院を卒業した後、様々な仕事に就職しています。毎年、卒業した社会人が母校に戻ってきて、在校生に仕事や大学での学問の話をしてくれますが、その顔ぶれは、様々な業種・職種に分かれています。

卒業生の中には、大学卒業後、福井に戻って会社を経営する方が多数います。また、外国で活躍する人、大学に残って教員・研究者となる人もいます。

Q30 主な合格実績を教えてください。

A30 進学実績についてはHPをご覧ください。

トップページの右上にある「高等学校のご案内」のメニューから、「進路指導」→「進路状況」とたどっていくと、過去3年間の合格実績を見ることができます。

Q31 子どもは将来建築家希望ですが、それに向けてのご指導などありますか。

A31 建築系をはじめとして生徒は様々な進路希望を持っています。その希望を実現するためには、それを専門的に学べる大学・学部に進学する必要があります。

そこで、本校では、生徒には1年次から大学のオープンキャンパスへの参加を促すとともに、3年次には希望の大学の入試に応じた特別講座等を開講し、生徒の進路希望の実現に努めています。

Q32 国公立大学看護科への進学実績を教えてください。

A32 2020年度入試では、のべ18人が受験し13人が合格、11人が進学しています。主な進学先は、福井大学（4名）、福井県立大学（3名）です。

Q33 芸術系の大学への進学実績を教えてください。

A33 2020年度入試では美術系の大学に進学した生徒はいませんでした。過去を見ると、多摩美術大学、武蔵野美術大学等の合格実績があります。教員養成系学部の美術科を志望する生徒がいる場合もあります。

進学型単位制教育課程になったことで、3年次に多くの美術の学習に取り組むことができるようになりました。志望者がいる場合は、しっかりサポートしていきます。

7 探究型学習、SSH

Q34 SSHで育てようとしている力について教えてください。

A34 高志高校は福井県で最も早くSSHに指定された高校として、これまで研究開発・実践を積み重ねてきました。課題研究を中心とした探究型学習により、主体性、社会で求められる力を育成しています。

具体的には、次のような力です。

- 課題を見つける力、「問い合わせ」をたてる力
- 課題を解決する力、正解でなく、「納得解」「最善解」を見つける力
- 自分の考えを分かりやすく表現する力
- 他者との対話、議論を通して考えを深める力

Q35 課題研究では、3年間でどのようなことに取り組むのですか。

A35 課題研究の3年間は、概ね次のような流れをとっています。

1年次 探究活動のスキル等を習得する。

探究のサイクルを理解する。

2年次の課題研究のテーマを考える。

（内進生は課題研究に着手します。）

2年次 4人前後でテーマを設定し、グループで課題研究を進める。

研究の途中経過結果等をポスターやプレゼンテーションにまとめる。

10月 選択型研修旅行で経過報告

2月 課題研究中間発表会で発表

3年次 2年次の研究を継続・発展させる。

研究成果を報告書・論文、英語レポート等にまとめる。

7月 課題研究最終発表会で発表
(高校での)「学びの履歴書」、(大学での)「学びの設計書」等を作成する。

Q36 SGHの研究指定が終わりWWLが始まっているとのことです、WWLではどのようなことを行っていますか。

A36 WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）事業は、令和元年度から始まったグローバル人材育成をねらいとした文部科学省の研修指定事業です。

金沢大学附属高校を拠点校とした北陸3県のWWLコンソーシアムには、県立金沢泉丘高校をはじめとする石川県の数校のほか、富山県から県立高岡高校、福井県から高志高校が参加しています。

数年後の、国際高校生会議の開催を視野に、同一の目的・テーマに対して、各高校の特色を踏まえた異なるアプローチで、課題研究を進める計画です。

毎年、「SDGsフォーラム」（仮称）を開催し、海外大学生を交えたワークショップを行うほか、グローバルな社会課題研究のカリキュラム開発を進める予定です。

Q37 学校行事や部活動のほかに、仲間と協力し合いながら何かをやり遂げる授業はありますか。

A37 SSHの課題研究は、まさに仲間と協力し合いながら自然科学の真実を追究したり、課題解決のための方策を考えたりする授業です。課題研究の授業に限らず、各教科の授業においても、ペアやグループ単位で活動する授業、仲間と協力してプロジェクトに取り組む授業に取り組んでいる教科・科目があります。

Q38 学校説明の中で、「SSHやSGH、中高一貫教育など、常に革新、挑戦を続けていく」と言っていましたが、僕たちが入学するときにも何か新しいことに挑戦するのですか。

A38 文科省の研究指定や、中高一貫教育など、学校のかたちを大きく変えるような新しい動きは、ここ数年はないかもしれません。目下、先生方は、中高一貫教育や探究的な学習の質の向上を目指して、検討を重ねているところです。

一方で、今、生徒会執行部を中心に、生徒会活動の活性化や校則の見直しなど、自分達で自分達の学校生活を改善しようという動きが出てきています。君たちが入学したあとに、行事や校則の見直しが行われる可能性はあると思います。

まだ公表できませんが、皆さんの学年から始めるプロジェクトがあります。入学後を楽しみにしていてください。

8 選択型研修旅行、国際交流

Q39 海外研修・海外交流について聞かせてください。

A39 これまで海外8コース、国内2コースで実施してきました。内訳は以下の通りです。どのコースを選択しても、大学や高校との交流、研究機関や企業等での研修が体験できるように工夫しています。

サイエンス研修 アメリカ東海岸、アメリカ西海岸、オーストラリア、マレーシア、シンガポール、国内（首都圏）

グローバル研修 オーストラリア、タイ、ベトナム、国内（首都圏）

※令和2年度は、新型コロナの関係で中止しました。代わりに北九州エリアで研修を行う予定です。

Q40 2年次の研修旅行までの積み立ては月々いくらぐらいになりますか。

A40 1年次の4月から毎月1万円を積み立てます。1年生は12万円、2年生は6万円の計18万円を積み立てます。

研修旅行が終わった後にコースごとに経費を精算し、追加の集金や返金を行います。

Q41 海外の人との交流はありますか。ある場合はどのような交流ですか。

A41 選択型研修旅行のほかにも、海外の人との交流が盛んです。姉妹校がアメリカとタイにあり、定期的に日本にやってきます。外部の留学関係団体から依頼されて、外国人留学生を受け入れることにも積極的に取り組んでいます。

また、SSH事業の中で、日本にいる外国人研究者を招いて特別授業をしてもらうこともあります。これは、希望者対象です。

9 授業料、学納金等の経費

Q42 入学後必要な費用について教えてください。

A42 入学時に必要な費用は、教科書・教材、制服・体操服・シューズ、入学料などで、約12万円強になります。

授業料（9900円）については、両親年収が約910万円未満の場合は、就学支援金の対象となり、授業料の負担はなくなります。

1年次の授業料を除いた学納金は、研修旅行の積立も含めて、月額約2万円です。

10 高校入試

Q43 高校入試の募集定員、昨年度の合格平均点を教えてください。

A43 募集定員は、160名です。合格平均点は、県教育委員会が非公表としているため、お答えできません。

Q44 11月の「学力診断テスト」での目標点数を教えてください。

A44 「学力診断テスト」についてのデータは、高校は知ることができません。過去のデータ等については、中学校の先生にお聞きください。

Q45 昨年度合格者は全員英検準2級以上合格者ですか。

A45 令和2年度入試において入学した高入生160名の英検の合格状況は、以下の通りでした。

2級：2名、準2級：87名、3級：51名、4級以下・なし：20名

なお、高志中学校から入学した内進生の英検の合格状況は、以下の通りでした。

準1級：4名、2級：46名、準2級：40名

高志中学校の生徒は、中学卒業までに英検準2級以上全員合格を目指にして、英語学習に取り組んでいます。グローバル化が急速に加速する現代社会において、英語力はとても重要な力です。中学生の皆さんには、高校入試で加点されるか否かに関係なく、英語の学習に精一杯取り組んでほしいと願っています。

Q46 英検の加点は、どの程度合否に影響していたのですか。

A46 英検による加点は、高志高校の場合、英検準2級以上を取得した生徒について、加点後に100点を超えない範囲で英語の学力検査点に5点を加えていました。

この加点制度は、令和3年度入学者選抜から廃止されました。

(参考までに)

合否は5教科の学力検査と調査書に記載されている3年次の評定、その他の総合的な判定で行っています。英検の加点が直接合否にどの程度影響するかの詳しい分析はありません。

加点制度が始まったころは、ほとんどの受験生が準2級以上を取得していたので、合否に影響していなかったという見方もできますが、合否ラインにいる受験生の場合は、加点があるかどうかは大きいとも言えます。

高志高校や藤島高校の場合、総合点の1・2点の差で、合否が分かれるというのが、現実の状況です。

11 その他

Q47 先生の在籍期間はどのくらいですか。（進路指導に優れた実績のある先生に長く指導してもらいたいので）

A47 異動がない私立高校に対して、県立高校の先生方には異動があります。福井県の県立高校では、概ね7年から10年を経過した先生方が異動の対象となります。

高志高校や藤島高校のような進学校では、担任や進学指導の継続性を考えた人事異動が行われています。

学習指導、進学指導の継続性は、進学校にとってとても重要な話です。

高志高校には、授業名人やふくい優秀教職員を始めとして、指導主事の経験者や県外進学校派遣経験者など、優れた先生が多数在籍しています。高志高校、高志中学校の先生方は、高校と中学校の両方の辞令を受けており、校種を超えて授業を担当したりしています。こうした経験をいかして、大学受験を常に念頭に置いて学習指導を行っています。

Q48 この先また、コロナ等で学校が休校になった場合、リモート授業はできますか。

A48 県教育委員会の御配慮により、11月末までに全生徒分のタブレットが届きます。また、全教室・講義室のネット環境が、強化された形で整備されます。12月からは、生徒がタブレットを自宅に持ち帰り、休校の場合、自宅手授業を受けることができる体制が整います。

本校では、授業動画を配信するだけでなく、現在、双方向の授業を行う準備も進めているところです。

Q49 新型コロナウィルスの感染で、学校行事の実施等大変だと思いますが、どのような対応をしていますか。

A49 何もしないで、自粛・中止の判断を下すことは簡単ですし、批判を招くこともないかもしれません。しかし、学校行事や部活動等、学校に来ることで、友達と一緒に取り組むことで育てることのできる資質・能力も、きっとあると思います。

高志高校では、感染症対策に配慮しつつ、行事の実施方法等を工夫して学校行事を実施しようとしています。

Q50 「高志にしかないもの、高志でしか学べないもの」という言葉がスライドにありました
が、それは何ですか。

A50 高志高校には、多くの「福井県で初」や「福井県で唯一」というものがあります。

併設型の中高一貫教育は、分かりやすい一例です（私立高校にはありますが、公立では高志高校だけ）

普通の高校は、入学すると最下級生、先輩しかいませんが、高志高校に入学すると中学生という後輩がいます。年齢差の大きな集団の中で、リーダーシップやフォローアーシップを発揮する経験を積むことができます。

SSHは、高志高校のほかに藤島高校、武生高校、若狭高校でも取り組んでいます。
WWLは、福井県では高志高校だけです。金沢大学附属高校を拠点として、石川県立金沢泉丘高校、富山県の高岡高校、福井県の高志高校がネットワークを形成して、グローバルリーダーの育成に取り組んでいます。

保護者の皆様からのご意見・ご感想（抜粋）

- ・今回の説明会に来たことで、貴校のグローバル人材育成に向けた取り組み、生徒の学力向上に向けた取り組み、フォロー方法等を知る事が出来て、良かったです。
- ・他の高校と比べてもとても分かりやすい説明でした。「高志高校に子どもを受験させたいな」と思える内容でした。
- ・自分が通っていた時代とは違う、社会で求められる力に対してのきめ細やかな試みがなされていることが、よくわかりました。
- ・校長先生をはじめ他の先生方の話し方、接し方や雰囲気がとても良かったです。校風とも繋がっているのだと想像します。今日はありがとうございました。
- ・新しいことに積極的にチャレンジする校風（SSH や SGH など）や、独自の取り組み（研修を兼ねた修学旅行など）が興味深く、良い印象を受けました。なにを質問するか考えながら話を聞く、ということが、大人の私も勉強になりました。
- ・御校の教育方針に非常に感銘を受けました。ぜひ我が子にも高いレベルでの学校生活を送らせたいと感じました。
- ・コロナ禍の中、前向きに取り組んでいることがよいです。
- ・やはり内進生との差を痛感しました。SSH の指定校だけあって、沢山の在校生が活躍しており、学力だけでなく自分で考える力をつけられる魅力的な高校だと思いました。

- ・学校生活を映像でみることができて、高校生活を具体的にイメージすることができてよかったです。
- ・本日は有難うございました。試験中とのことで無理だったとは思いますが、高入生の先輩方の生の声も経験談としてききたかったです
- ・今日、参加させて頂き息子の気持ちがますます強くなった様です。内進生のお子さんとの勉強の違いに不安がありましたが、今日先生方のお話を聞いて安心しました。ありがとうございました。
- ・多様な選択科目に驚きました。あれだけ選択することができると、生徒の将来的な幅がより広がるのではないかと感じました。各選択の中で、自分の興味のあることや得意なことが明確になり、自分自身についてよく知り、考えることに繋がると思います。
- ・「何もできない状況でどうするか自分で考える」文化祭への生徒の皆さんを考えた対応策をお聞きし、自分たちで最善を考える力を養っている、と思い、良い教育だと思いました。
- ・550組参加ということで、今年も狭き門なんだなと思いました。息子は、こんなにいるのかと驚いていましたが、今後のやる気につながると期待しています。本日はありがとうございました。
- ・学力が高いことはもちろん、先生方の熱意、行事等での生徒さん達の熱意も伝わりました。ぜひ御校で青春を満喫してほしいと思いました。
- ・コロナの状況下ですが、説明会で学校の取り組みや活動状況などが分かりました。ありがとうございました。本当だと、学校内や授業、部活の様子などの見学があるとよかったです。
- ・学校の中を見ることができず、残念でした。
(※ 同じような趣旨のご意見・ご感想が多数ありました。)

中学3年生の生徒さんからのご意見・ご感想（抜粋）

- ・部活と勉強の両立て心身ともに成長させたいと考えていたので、先生方からのサポートが充実している点に好感を持てました。ありがとうございました。
- ・学校の様子や方針を聞いてぜひ行きたい学校なので勉強や受験を頑張りたいです。ありがとうございました。

- ・中学からの生徒との差が気になっていましたが、説明を伺って安心しました。そしてますます入学したいと思いました。
- ・正直、今は点数がだいぶ劣っているのですが、自分に対してやる気を出させてくれるような学校でした。
- ・貴校は私が想像していたよりも素晴らしい、とても温かみのある学校でした。先生方も丁寧で優しくとても良い学校だと感じました。校内の設備も充実していてとても勉強しやすい環境だというところが特に良いと思いました。貴校に入学した際はどうかよろしくお願ひします。
- ・具体的な課題研究について教えてください
- ・先輩方の実績にとても驚きました。たくさん勉強し、高志高校に入学できるよう頑張ろうと思います。
- ・高志高校への進学を昔から希望していましたが、海外研修で外国人と交流を持つることにとても興味を持ちました。ぜひ合格したい、と思いました。
- ・元々、高校の特徴や、勉強面などについての紹介なので、聞いていて楽しいということは期待していないが、もう少し部活動や学校行事などについての紹介があると面白く、興味がもてた。
- ・素晴らしい先生方や先輩方がたくさんいらっしゃり、特に留学ができるところに惹かれました。
- ・説明会に参加させて頂いたことで高校の様子が分かり、映像で運動会の様子などが見ることができて、とても学校生活が楽しみになりました。
- ・校舎見学、部活動見学をしたかったです。
(※ 同じような趣旨のご意見・ご感想が多数ありました。)
- ・グローバルな高校だと思いました。
(※ 同じような趣旨のご意見・ご感想が多数ありました。)
- ・学校の雰囲気が良いなと思った。
(※ 同じような趣旨のご意見・ご感想が多数ありました。)
- ・入学したい気持ちが強くなりました。合格できるよう、引き続き勉強を頑張ります。
(※ 同じような趣旨のご意見・ご感想が多数ありました。)